

2004C

研究テーマ名	都市の文化的創造的機能を支える公共交通の役割
背景と目的	未来の都市のあり方を考えるにあたり、都市はサステナブルかつクリエイティブであるべきと考えられる。ニューヨーク、ロンドン、ウィーンといった例を出すまでもなく、文化的かつ創造的な機能・活動の集積の重要性は大きい。派生する交通需要の受け皿、かつそれらを誘引・誘導する仕掛けとしての公共交通の役割を明らかにすることを目的とする。これまで、ニューヨーク、ロンドン、ウィーンの事例調査、専門家招聘、東京および地方都市での課題整理、ウェブ調査で行動意識分析を行った。その成果をもとに、最終年度は、大都市東京、地方都市富山、途上国モデルとしてのバンコクでのケーススタディを実施し、公共交通のあり方について提言を行う。
期待される成果	過去2年間の活動から、日本の大都市と地方都市、そしてニューヨークの人々の余暇活動と交通行動の横断的分析、ニューヨーク、ロンドン、ウィーンの優れた文化的創造的な機能と公共交通の連携事例の調査、東京や富山でのヒアリングや実態調査から得た都市の課題等を整理した。これらに基づき、最終年度のケーススタディを通して、都市の歴史的な文脈、文化的体験の種類多様性に留意し、公共交通につながる空間の課題、交通結節点や車両を含む公共交通のインフラの課題、公共交通を支えるシステムの課題について、連続性やスケール感、移動の選択肢や自由度、情報提供や運賃制度も含めた MaaS の動向も踏まえた提言を行う。渋滞対策、混雑対策の視点を越え、文化的創造的機能と大きく関わる未来の公共交通のかたちについての具体的な提言は、課題解決型の交通システムの議論に先見性を与え、実際の都市の潜在力に基づき、実現可能性を十分に踏まえた提言は実際性にも長け、今後の都市での公共交通政策に有益な成果となる。